

■新宿Y邸／家族の集散が空間の満ち引きとなって現れる住宅

子育てを終えた夫婦の「終の住処」となるマンションリフォーム計画。こうした場合、夫婦を主題とした二項対立的なプラン事例をよく目にするが、子供が独立したからと言って、親の家から痕跡が消えるものではない。

子供が独身の時は、たまに帰って来た時の寝床を考えるし、結婚したり、子供が出来た場合を想定した場所づくりも考える。

その結果、プラン上に殊更大きな部屋が出来たり、余計な場所に間仕切りの建具があったりする。結局、こうした操作が、「図式的なプラン」を崩すことになるけれど、その崩れ具合こそ、住み手が持つ家族関係の「個性」ではないかと考える。

本計画では、設備コアを中心とした回遊形式のプランを基に子供との関係も織り込んだ住み方の想定を繰り返しながらプランを練った。

玄関を入ると現れる「木の箱」（＝設備コア）を中心に、洗面台や収納が並ぶ〈生活動線〉と右から迂回して2つの小空間を通り抜ける〈空間動線〉がLDKで繋がって回遊することになる。

夫婦二人暮らしの時、家人がLDKに行き来する場合は〈生活動線〉、来客などのパブリックな場面では生活感を隠し易い〈空間動線〉を用いる。

〈空間動線〉はこの他、オープンなフリースペースとして、在宅勤務の職場や趣味のギャラリーなどにも使う。ただし、入浴時のようにどちらかが水回りを用いる際は、一時的に〈生活動線〉を塞いで〈空間動線〉を用いる。

一方、子供が帰省した時は、〈空間動線〉の室1か室2、または両方を個室化し、LDKへの通路には〈生活動線〉を用いる。

室1と室2は、設備コア周りに組み込んだ間仕切り建具の開閉によりLDKに連なる小さな空間が現れたり、消えたりする。

家族の集散が空間の満ち引きとなって現れる住宅を考えた。

■新宿Y邸

所在地：東京都新宿区

用途：住宅

竣工年：令和6年10月

延床面積：78.00㎡

階数：1階

主要内装仕上：・PB AEP塗装（内壁・天井1）

・シナ合板クリア塗装（内壁・天井2）

・生石灰クリーム塗装（内壁・天井3）

・窯業系平形スレート（内壁・床4）

・リシン掻き落とし（内壁5）

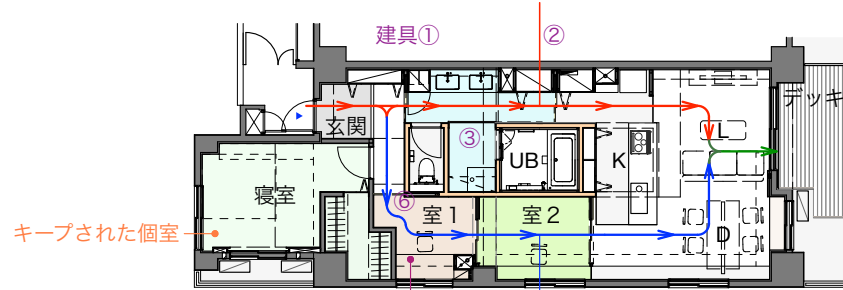
・オーク無垢フローリング（床1）

・リノリウム（床2）

・杉熱処理木材（床3）

■Y邸における空間利用のフォーメーション

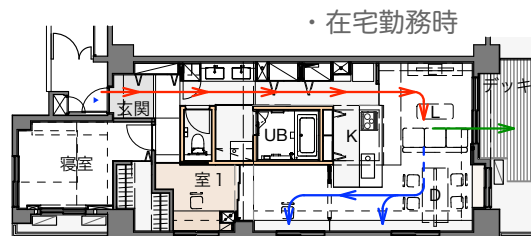
〈空間利用のキー・プラン〉 生活動線：LDKに繋がるプライベートな通路で、洗面や入浴時には空間としても利用可能な動線



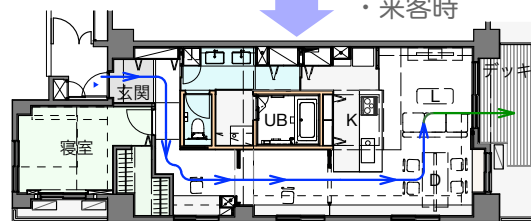
建具⑤の開閉で生成される小空間

建具④
空間動線：LDKに繋がるパブリックな通路で、家族が集まった際は個室としても利用可能な動線

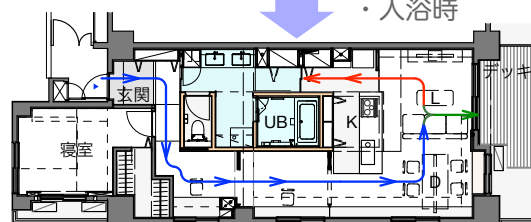
夫婦二人暮らし時のフォーメーション



建具⑤・⑥を閉じてSOHOとして利用

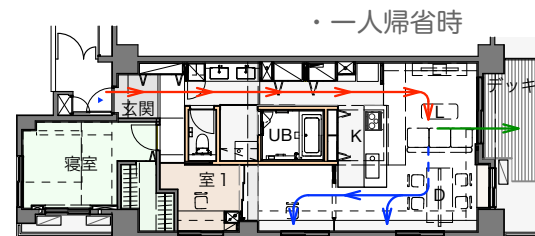


LDK～室1,2を開放。建具①・②は閉じてトイレとして利用

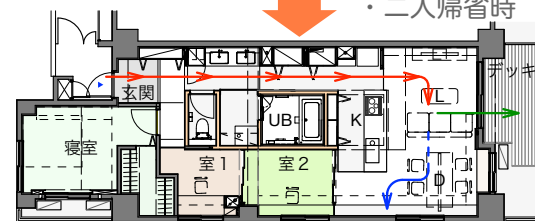


建具①・②は閉じて③は開放。水回り全体を一体利用

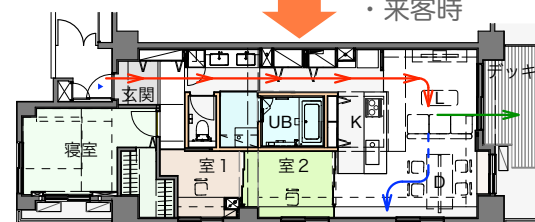
子世帯帰省時のフォーメーション



建具⑤・⑥を閉じて個室として利用



建具④・⑤・⑥を閉じて個室として利用



建具③・④・⑤・⑥を閉じて個室として利用